

第203回教育研究評議会<議事要録>

日時 令和4年4月11日(月) 13:59 ~ 15:47
場所 <Web会議により実施(Microsoft Teamsを使用)>
本部棟3階 特別会議室
出席者 服部学長, 藤田理事, 肥後理事, 大谷理事, 椎名理事, 藤波理事, 金山副学長,
松崎副学長, 増永副学長, 丸橋法文学部長, 河添教育学部長,
磯村人間科学部長, 鬼形医学部長, 伊藤総合理工学部長, 川向生物資源科学部長,
片岡評議員, 加藤評議員, 高橋評議員, 石原評議員, 山田評議員, 松本評議員,
河野評議員, 廣光評議員, 境評議員, 津本評議員, 半田評議員
オブザーバー 千家監事
〔陪席: 企画部長, 研究・地方創生部長, 教育・学生支援部長, 総務部長,
財務部長, 松江地区学部等事務部長, 医学部事務部長, 教育企画課長,
入試課長, 学生支援課長, 総務課長, 監査室長〕

議事に先立ち, 学長から新任の評議員及び部長の紹介があった。

議題1 学長選考・監察会議委員の選出について

- 藤田理事から, 学長選考・監察会議委員の選出について, これまで各学部長に委員に就任いただいております。令和4年4月1日に教育学部長が交代したことから, 後任の河添教育学部長を委員に推薦することについて説明があり, 審議の結果, 河添教育学部長の委員選出について議決された。

議題2 安全保障輸出管理規則の一部改正について

- 大谷理事から安全保障輸出管理規則の一部改正について説明があり, 審議の結果, 議案概要説明書について一部文言を修正のうえ議決された。

議題3 教育・学生支援本部大学教育センター規程の一部改正について

- 肥後理事から教育・学生支援本部大学教育センター規程の一部改正について説明があり, 審議の結果, 原案どおり議決された。

議題4 全学共通教育管理委員会規程を廃止する規程の制定について

- 肥後理事から全学共通教育管理委員会規程を廃止する規程の制定について説明があり, 審議の結果, 原案どおり議決された。

議題5 名誉教授の称号授与について

- 服部学長から名誉教授の称号授与について説明があり, 審議の結果, 原案どおり議決された。

議題6 令和5年度魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増への申請について

- 服部学長から令和5年度魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増への申請について説明があった。
- 片岡評議員から申請が通らなかった場合でも定員増の予定は変わらないのかとの質問があり, 服部学長から申請が通らなかった場合は定員増が認められないが, 規模を縮小して新学部を設置する予定であるとの回答があった。
- 片岡評議員から新学部がロールモデルとして改革推進し, 最終的には大学全体の改革・新島根大学の実現を目指すという方向性が資料内で示されているが, 具体的にどのようなイメージをもっているのかとの質問があり, 服部学長から新学部は工学系学部であるためロールモデルとして全ての学部に応用することは難しいが, 新学部が示すコンセプトを踏

襲しながら各学部において適切な改革を進めることで、最終的に新たな島根大学が実現できると考えているとの回答があった。

- 伊藤総合理工学部長から新学部を設置するうえで、社会との繋がりを意識しながら社会実践プログラム、語学教育等の教育改革を目指してほしいとの意見があった。
- 増永副学長から社会のニーズを見据えた研究を行うことが必要と考えられるため、新学部の設置が自治体との繋がりを深めるきっかけとなることを期待したいとの意見があった。
- 半田評議員から新学部の入試情報について質問があり、肥後理事から定員増の申請が通った場合、定員比率60%を一般入試、40%をへるん入試で行うことを考えているとの回答があった。
- 半田評議員から入試に関する周知はいつ行うのかとの質問があり、通常であれば7月頃に高校へ周知を行うが、入試の大枠が決まれば7月を待たず段階的に周知していきたいとの回答があった。

協議事項1 令和4年度大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材育成事業（SPARC）」の申請要件について

- 肥後理事から令和4年度大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材育成事業（SPARC）」の申請要件について説明があった。
- 松崎副学長から島根県立大学と授業科目について具体的なことを検討しているのかとの質問があり、肥後理事から授業科目については文部科学省に相談しており、文理横断型の教育が今後必須になることを踏まえると、授業科目のSTEAM化を進めていくことが必要であることが指摘されているため、本学のデータサイエンス及び理数系の科目、情報等を島根県立大学と共有していくことを考えているとの回答があった。
- 松崎副学長から経済団体、自治体等が求める人材を育成するためには、各大学の強みを活かしながらプログラムを作る必要があるのではないのかとの意見があり、肥後理事から各大学が特色のあるプログラムを作るために人材を補充し、並行して運営費面についても考える必要があるとの回答があった。
- 増永副学長から授業科目の一部共有化に伴い教員数の減少に繋がるのではないのかとの質問があり、服部学長から大学等連携推進法人の設立によって教員数が減少する可能性は高いと考えるとの回答があった。
- 金山副学長から金融機関はどのような形で関わることになるのかとの質問があり、肥後理事から島根県ではしまね産学官人材育成コンソーシアム事業を実施しているが、産学官金の「金」は含まれていないため、SPARCを立ち上げる際に「金」の要素を加えるか、もしくは新たな事業を展開していく形になると思われるが、現時点では未定であるとの回答があった。
- 山田評議員から組織的な教育が求められることが予想されるため、学科等の枠組みを新たに作る必要があるのかとの質問があり、肥後理事から連携開設科目については教育質保証の観点から一定の団体を作る必要があるとの回答があった。
- 山田評議員から一般社団法人を設立するにあたり、事務体制を検討していく必要があるのではないのかとの意見があり、肥後理事から一般社団法人大学アライアンスやまなしを参考に、具体的な連携事業を検討するためのワーキンググループを設置することを考えているとの回答があった。
- 片岡評議員から大学等連携推進法人を設立することによる利点が不透明であり、当面は工学系新学部の設置に注力する方が良いのではないのかとの意見があった。
- 藤田理事から大学等連携推進法人を設立することになると、大学の統合という点について意識せざるを得ないが、議論がまだ十分にできていないため、引き続き慎重に検討すべきではないのかとの意見があった。

- 半田評議員から連携開設科目を活用した取り組みにおいて、オンラインを活用した連携はあるのかとの質問があり、肥後理事からオンラインを活用する予定ではあるが、教育現場のDXを推進したとしても、一定程度地理的に繋がった地域でなければ地域貢献人材育成は難しいと考えるとの回答があった。
- 藤波理事から自走化後についての議論がないまま進めていくと、経費的な面で逼迫する恐れがあるため、経済的な影響面についても注意しながら今後の教育研究体制を考える必要があるとの意見があった。
- 藤波理事から様々な選択肢がある中で、なぜ大学等連携推進法人を設立するに至ったかについて説明責任が大学に求められることが考えられるため、より慎重な議論を重ねる必要があるのではないかととの意見があった。
- 服部学長から以上の意見を踏まえ、本件について執行部で検討していきたいとの説明があった。

報告事項 1 令和4年度入試実施結果について

- 肥後理事から令和4年度入試実施結果について報告があった。

報告事項 2 第4期中期目標の提示及び中期計画の認可について

- 肥後理事から第4期中期目標の提示及び中期計画の認可について報告があった。

報告事項 3 部局評価に関する規程の一部改正について

- 肥後理事から部局評価に関する規程の一部改正について報告があった。

報告事項 4 島根大学と島根県教育委員会との高大連携等に関する協定書について

- 肥後理事から島根大学と島根県教育委員会との高大連携等に関する協定書について報告があった。

報告事項 5 共同研究のための島根大学研究データベースについて

- 増永副学長から共同研究のための島根大学研究データベースについて報告があった。
- 服部学長から島根大学研究データベースは本日からでもアクセスすることが可能であるのかとの質問があり、増永副学長から学内限定でアクセスすることができるがデータベースの登録が完了していないため、学外からのアクセスが可能となる本格稼働は5月上旬を予定しているとの回答があった。

報告事項 6 コンプライアンス・プログラム（eラーニング）の実施状況について（R4.3.31現在）

- 藤田理事からコンプライアンス・プログラム（eラーニング）の実施状況について（R4.3.31現在）報告があった。

報告事項 7 国際交流協定の更新について

報告事項 8 教員の採用等について

- 報告事項7及び8は書面をもって報告に代えた。